様式第１号（第１０条関係）

２０２４年度業務実績報告書

提出日２０２５年1月１６日

１．職名・氏名　准教授・篠原秀文

２．学位　学位　博士（農学）、専門分野　植物生化学、授与機関　名古屋大学、授与年　2009年

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 分子生物学 II（２単位）・3 年時 分子生物学実験（２単位）（分担）・3 年時 生物資源学概論（２単位）（分担）・2 年時
②内容・ねらい 分子生物学の基礎的知識および思考を身につけるため。 科学を学ぶために必要な英語を身につけるため。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・毎回の講義用スライドを資料として印刷配布し、復習しやすくした。また各章の終了時にまとめと演習を行う時間を設けた。 ・動画資料や YouTube を講義に取り入れることで理解度を上げる工夫をした。 ・毎回、講義冒頭に前回の復習の時間を設け、また学生から挙がった質問に回答する時間を設けた。
(2)その他の教育活動
内容

４．研究業績

(1)研究業績の公表

①著書

【0 本】

②学術論文（査読あり）

Matsui S., Noda S., Kuwata K., Nomoto M., Tada Y., Shinohara H. and Matsubayashi Y. (2024)
Arabidopsis SBT5.2 and SBT1.7 subtilases mediate C-terminal cleavage of flg22 epitope from bacterial flagellin
Nature Commun.15 3762

2. Furumizu C and Shinohara H. (2024)
Land plant peptide signaling: What we know -and don't know- about its evolution
Physiologia Plantarum e14172

【2 本】

③その他論文（査読なし）

【0 本】

④学会発表等

1.「ゼニゴケの硫酸化ペプチドホルモン MAPPY は葉状体の分岐を制御する」第 65 回日本植物生理学会年会（2024 年 3 月）、篠原秀文、林陽子、横井洸太、松林嘉克（口頭発表）
2　「植物ペプチドホルモン－受容体ペアを介した細胞間コミュニケーション」、第 9 回豊田理研異分野若手交流会（2024 年 9 月）、篠原秀文（ポスター発表）
3　「植物のペプチドホルモン～これまでとこれから～」石川県立大学生物資源工学研究所セミナー（2024 年 6 月），篠原秀文（招待講演）
4　「RGF のゼニゴケオーソログ MpRGF の種特異的活性と受容体結合能の評価にむけて」北陸植物学会（2024 年 11 月）、金巻泰亮、篠原秀文（口頭発表）
5　「MpRGF とその受容体のペアにおける下流情報伝達経路の解明にむけて」北陸植物学会（2024 年 11 月）、松田七海、今井雄星、西浜竜一、篠原秀文（口頭発表）

【5 件】

⑤その他の公表実績

【0 本】

(2)科研費等の競争的資金獲得実績

【学外】科研費・基盤（B）
【学内】戦略的課題研究推進支援事業、個人研究推進支援

(3)特許等取得

(4)学会活動等

５．地域・社会貢献活動

⑥ 公開講座（2024 年 12 月、「福井県大から発信！あなたの知らない「コケ」の世界」） 高志高校実験体験（2024 年 3 月、分子生物学実習担当） 鯖江高校模擬授業（2024 年 10 月）

６．大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
職場委員会（2023 年 4 月～現在に至る） カリキュラム WG（2023 年 4 月～現在に至る） 広報 WG（2023 年 4 月～現在に至る） JABEE 委員（2023 年 4 月～現在に至る）
(3)学内行事への参加
オープンキャンパス（2024 年 8 月、研究内容の紹介・展示）
(4)その他、自発的活動など